

福井県スポーツ推進計画の概要

目標年次：平成34年度
第1次計画推進期間：平成25年度から平成30年度

- これまでの経緯 スポーツ振興法に基づき、福井県スポーツ振興プラン策定【平成10年3月 目標年次：H22】
- 国の動向 スポーツ振興基本計画を策定【H12年9月】 スポーツ基本法を制定【H23年6月】 ⇒スポーツ基本計画（期間10年）を策定【H24年3月】
- 今回の計画

<計画策定の背景>

- 人口の減少、少子高齢化の進行
- 平成30年国民体育大会の開催
- 成年のスポーツ実施率が低い（36.8%：全国45.3%）
- 県民の多くは運動不足を感じている

<目指す姿>

- （1）全国トップクラスの体力をさらに伸ばしスポーツに親しめる子どもを育む福井
- （2）本県発祥のニュースポーツなど幅広いスポーツを楽しめる福井
- （3）国体開催を契機として国内外で活躍できるトップアスリートが育つ福井

現状と課題

I 子どもの体力・運動能力

- ・体力テストを継続し分析・改善による全国トップクラスの体力
- ・部活動で中学生が小学生時の競技を続けられない場合がある
- ・小学校での体育教員が少ない

【1日1時間以上運動をする子ども】	H20	H24
小6 1.0% (全国58.2%)	⇒	小6 1.5% (全国59.7%)
中7 5.3% (全国73.7%)	⇒	中7 5.7% (全国74.1%)

主な施策

【子どもの体育・スポーツ活動】

1 学校体育の充実

- ・小学校体育授業の支援（SAS※・地域のスポーツ指導者による授業支援）
※スポーツアシスタントスタッフ：体育授業で児童に実技見本を見せたり、実技指導の補助を行う者
- ・A1（アクティブワン）運動を実施（小学校で、ラジオ体操や外遊びなどの体を動かす活動を1日に1時間以上実施）
- ・運動・スポーツ体験教室等の開催（国体競技を小学校・中学校で一貫して取組み、児童生徒への普及と市町での定着）
- ・学校にジュニアトップアスリートを派遣（小・中学校で運動、スポーツ技能の向上に意欲を持って取り組めるようにするため、子どもたちと同世代のジュニアトップアスリートの模範演技を見る機会を設定）

2 運動部活動の充実

- ・部活動指導力向上会議の設置（国体に向けた強化や体罰等の不適切な指導の排除に向け、指導者の資質向上対策を協議）
- ・地域の実情にあった運動部活動の実施（地域や小学校の施設を利用した運動部活動の実施、新設部活動への外部指導者を派遣）

数値目標

- 子どもの運動実施時間【1日1時間以上】

【H24】小学生	61.5%
中学生	75.7%
↓	
【H30】小学生	78.0%
中学生	82.0%

II 運動・スポーツの習慣化

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率が減少
- ・運動をしない多くの理由は「仕事（家事・育児）に忙しくて時間がない」「機会がない」「年をとったため」であり、特に女性に多い。また、運動する理由の多くは「健康、体力づくり」のためである

【成人の週1回以上の運動実施率】	H18	H24
42.3%	⇒	36.8% (全国45.3%【H21】)

【総合型地域スポーツクラブ設立数】	H12	H24
1クラブ ⇒ 24クラブ		(中学校区に対する割合32.4%)

【県民スポーツ祭の参加者数】	H17	H24
25,178人 ⇒ 32,520人		

【スポーツ指導者バンクの登録率】（日本体育協会公認スポーツ指導者）	H21	H24
34.5% ⇒ 27.4%		

【1県民1スポーツ】

1 スポーツに親しむ環境づくり

- ・一年を通じたスポーツの推進（冬季でもできる体験フェスタの開催や冬場でのスポーツ練習等が可能な場の確保）
- ・スポーツ施設の整備・稼動状況等の情報を提供（国体開催に向けた運動公園の整備など施設整備による県内スポーツ施設の改修状況等を取りまとめ、使用できない施設の代替施設などのスポーツ施設の情報を提供）
- ・学校施設も活用した総合型地域スポーツクラブの拡充（県民のスポーツ活動の拠点となる総合型地域スポーツクラブの活動場所を拡充し、地域住民のスポーツ参加を促進するため、学校の体育施設も活用）

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- ・子育て世代等のスポーツ参加の促進、遊びコーディネーターの派遣（育児中でも気軽にスポーツに参加できるよう、子どもを預かる保育士などを派遣するスポーツ教室の開催、就学前の子どもたちの遊びを先生に助言する「遊びコーディネーター」の派遣）
- ・市町での国体競技の普及（国体のデモンストレーション競技等を普及し、スポーツを行う機会を増やす）
- ・県民スポーツチャレンジ制度の構築（国体開催を機に家庭・地域・企業など、あらゆる場で県民がスポーツを楽しみながら実践できるシステムづくり）

3 ユニバーサルスポーツの推進

- ・高齢者や障害者のスポーツ参加の促進（老人会などへ、スポーツ・レクリエーションの指導者を派遣し、高齢者に優しいスポーツなどを紹介）
- ・スポーツ活動場所の確保（障害を持つ人が十分にスポーツを行えるよう、特別支援学校等のスポーツ施設を活用）

4 スポーツボランティアの確保と活用

- ・公認資格取得の促進など指導者の資質向上やスポーツ指導者バンクの活用（指導者やボランティアの登録を行う指導者バンクの周知と積極的な活用）

5 スポーツ交流の推進

- ・全国大会誘致とあわせた県民向け大会の開催（全国大会を誘致した際に県民も参加できる大会を同時に開催して交流を促進）
- ・スポーツツーリズムの推進（合宿・観光情報、子どもたちのスポーツ交流をセット化するなどメニューを提供し、県外からの合宿の誘致を図る）

- 成人のスポーツ実施率【週1回以上の実施】

【H24】	36.8%
↓	
【H30】	58.0%

- 総合型地域スポーツクラブ数

【H24】	24クラブ
↓	
【H30】	35クラブ

III 福井県の競技力

- ・オリンピック選手延36名を輩出
- ・国民体育大会成績は概ね30位台
- ・平成30年福井国体での「開催県としてふさわしい成績」の獲得
- ・国体において、得点力がある競技に偏りがある

【国際大会上位入賞者数】	H19	H24
(3位以上の入賞) 7名 ⇒ 22名		

【上位獲得が望める競技】 ボート、ホッケー、体操、自転車、テニス等

【トップアスリートの養成】

1 選手を育成・強化する体制づくり

- ・重点強化校の指定（強化拠点を構築し、県内外から優秀な選手を強化校に集め、実戦練習を強化）
- ・企業による選手等の雇用など経済界の協力を得ながら、クラブ・企業チームでの強化（Uターン選手の受け皿づくりのため、クラブチームなどが行う強化練習を支援）
- ・世界で活躍できる選手を地元で育成するため優秀な指導者を確保（中央競技団体から優秀な指導者を定期的に招いた指導実践や指導者講習会を実施）

2 競技力向上のための環境づくり

- ・一年を通じた練習会場の確保（県、市町の体育施設および企業が所有する施設を有効活用します）
- ・スポーツ医科学支援体制の充実とアスリートに必要な栄養指導の推進（栄養士がジュニア選手、保護者、指導者を対象に食育を指導）

- 国民体育大会成績【男女総合順位】

【H24】	24位 ↓
【H30】	開催県としてふさわしい成績

- 国際大会上位入賞者数（3位以上の入賞）

【H23】	27名 ↓
【H30】	40名